

墓郷形成の前提

大和・結崎墓地の周辺

今尾文昭

Preconditions for the Formation of Graveyard Villages: around the Yuzaki Graveyard in Yamato

はじめに

- ①斑鳩・極楽寺墓地と墓郷集団
- ②中世結崎の範囲と結崎墓地の墓郷集団
- ③寺川の付け替えと結崎墓地の墓郷集団
- ④結崎墓地の計画的配置の可能性
おわりに

【論文要目】

奈良盆地の郷墓が、近世以前の墓地に遷移することは多く指摘されるところである。

郷墓の経営は複数の村で構成された墓郷によって行われるが、その枠組みと水郷・山郷・宮郷あるいは国人郷との関連が説かれており。しかし、こういったさまざまな地域的、歴史的枠組みが現実にはそのまま墓郷の枠組みに適応できない場合が多い。実際の墓郷の形成過程には多様な状況があり、それが作用したことによる原因があると考える。墓郷形成の前提、過程を個別に検討して、今後の類型化に備えることが以下の課題であろう。

一例として奈良盆地のほぼ中央に位置する磯城郡川西町結崎墓地の墓郷に注目した。結崎墓地の墓郷は寺川を挟んだ広域な範囲に及び、大和でも最大級の規模となつている。まず文献史料から中世後半期における結崎の範囲の復元に努め、現在の墓郷範囲にはば重複することを指摘した。つまり墓郷集団の地域的枠組みが、一三世紀後葉以前に存在した可能性を示した。次にこの地域的枠組みの実態を示す歴史的事業として、寺川の付け替えについて言及した。寺川は結崎付近では、古代道路の筋道(太子道)に重なる直線の流路となつていて、近年の考古学調査で、その旧流路と推断できる河道の検出がなされたことと、現地形観察から旧流路を推定復元した。文献史料も援用

して付け替え時期を一二世紀後葉から二三世紀中葉にあると推測した。寺川の付け替え事業は治水、灌漑、耕地、交通の再編成を企図したものであったと推察されるが、地域の拠点施設に変革をもたらしたことでも想像に難くない。もちろん墓郷集団の先駆ともいうべき集団は、その渦中にあつた。

次に結崎墓地の地理上の位置について検討した。(1)大和の広域条里地割の施工域の周縁にある。(2)この広域条里地割施工域の周縁が生み出されたことと、寺川の付け替え事業に関連性がある。(3)結崎墓地を通る南北方向の同一軸線上(磯城郡、平群郡の条里坪境界に相当)に信仰、交通上の要衝施設を見いだすことができる。すなわち、北に向かつて結崎墓地—梅戸橋(もとの結崎寺、寺川の渡河点) — 板屋ヶ瀬橋(大和川の渡河点) — 阿土墓地 — 良福寺の計画的配置がある。(4)これらは、律宗の活動拠点として史料にみえる。

結崎墓地の墓郷の地域的枠組みが一三世紀代に形成されたこと、郷墓に計画的配置されたものがある可能性墓郷範囲を越えた広域な範囲を対象とした土地用途の吟味、選択のなかでそれが実行された可能性、結崎墓地の墓郷集団の形成過程に律宗の活動が関与したことなどを指摘した。